

第3年5組社会科学学習指導案

日時 令和元年11月12日(火) 5校時
場所 3年5組教室
指導者 坂川 拓磨
生徒 男子19名 女子13名 計32名

1. 単元名 消費生活と経済

2. 単元の目標

- (1)個人の消費生活のあり方について意欲的に追求しようとしている。 【関心・意欲・態度】
- (2)身近な消費生活や流通に関する様々な事例をもとに、経済活動における選択や消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考えることができる。 【思考・判断・表現】
- (3)消費生活に関する課題や消費者問題に関する資料を収集し、その資料をもとにして、自分の意見を構成することができる。 【技能】
- (4)身近な消費生活を中心にした経済活動の意義やしぐみについて理解することができる。 【知識・理解】

3. 教材について

本単元では、「私たちの暮らしと経済」の第1節にあたり、消費、流通について基本的な社会的事象を取り上げ、経済活動の意味や意義を身近な生活と結びつけて学習していく。学習指導要領では、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるために、身近で具体的な事例を取り上げ、個人や企業の経済活動が様々な条件の中で選択を通じて行われるという点に着目させることを主な目的としている。また、消費者の保護については、消費者の自立の支援なども含めた消費行政を取り扱うこととある。そのため、本単元の学習においては、消費者の視点のみならず、企業などの生産者側の視点や行政側の視点など、多くの視点から考察していくことが求められる。

これからの消費生活は、消費税率の変動や諸外国との貿易をはじめとする関係、少子高齢化の進行や情報化の進展などの様々な要因によって大きく変化することが考えられる。そのような変革する経済の中で、生徒がよりよく生きるためには、経済に対する関心を高めさせ、賢い消費生活のあり方や消費者として自立した姿を目指していく必要がある。

4. 生徒について

本学級の生徒は、全体的に落ち着いて学習に臨むことができている。学級内の人間関係も良好であり、小グループでは、積極的にコミュニケーションを取り、学び合うことができている。対話的な学習においても、「他の人の意見を取り入れることで自分の考えを深めることができる。」「自分にはなかった意見を聞けるのは面白い。」など肯定的な意見を持っている生徒が多く、進んで活動に取り組んでいる。また、新聞、ニュース、インターネットなどで報道されている時事問題に対しても高い関心を持っており、自分の考えを積極的に発言できる生徒も多い。

一方で、社会的事象に対する知識の定着には差が見られる。定着度合いの高い生徒は、意見発表の中でも、既習の内容と関連付け、自分なりの根拠を持ちながら説明することができる。しかし、知識の定着度合いが低い生徒については、なかなか根拠を持った説明を行うことができず、社会的事象に対する理解が不十分な傾向にある。

また、時事問題に対して高い関心があるものの、インターネットを通じた情報を多く得ているため、その情報に偏りがあり、多面的・多角的に物事を見ることができていない傾向にある。そのため、ひとつの事象に対して、多面的・多角的にとらえ、そこから自分の考えを作り上げられるような手立てが必要である。

消費生活に関わるアンケート

1. 商品を選ぶ際にどのようなことを優先して選びますか。
 ①デザイン 14人 ②メーカー(ブランド) 2人 ③値段 10人 ④機能 6人
2. 説明書や注意書きを読みますか。
 ①よく読んでから使用する 5人 ②簡単に読んでから使用する 13人
 ③あまり読まない 9人 ④全く読まない 3人
3. 商品を購入した際または購入後にトラブルに巻き込まれたことがありますか。
 ・自分が経験 ①はい 2人…不良品(偽物)が送られてきた。 ②いいえ 30人
 ・家族が経験 ①はい 3人…違う商品が届いたことがあった。 ②いいえ 29人
4. 詐欺や悪徳商法などの経験にあったことはありますか。(複数回答可)
 ①自分が経験した 1人…オレオレ詐欺の電話がかかってきた(兄になりすまして)。
 ②家族が経験した 5人…保険で家のリフォームができる。曾祖母に振り込め詐欺(自分になりすまして。)
 ③友人が経験した 1人…ラインのIDが乗っ取られて、カードを購入させられそうだった。
 ④なし 25人

アンケートの結果を見ると、生徒自身の経験はほとんどないものの、生徒の周りでも詐欺や悪徳商法、商品購入の際のトラブルは少なからずあり、身の回りでもそのようなリスクが潜んでいることがわかる。また、生徒自身も特殊詐欺については各種報道などで取り上げられていることもあり、関心は高い。そのため、犯罪に巻き込まれないだけでなく、自分たちの消費生活の質をどのように維持し、向上させていくか、そのためにどのような力が必要か、目指していくべき姿はどのようなものか、などの視点を大切に学習に取り組ませる必要がある。

5. 指導にあたって

課題解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚できる力を育成する

指導にあたっては、身近な事例に基づく学習活動やシミュレーションなどの様々な学習活動を通して、経済に関する関心を高めさせ、暮らしと経済の関係に気付かせるようにする。事例を検討する際には、一面的ではなく、社会的事象の様々な側面に気付くことができるようにし、多面的に考えさせたい。さらに、考えさせる際には「効率と公正」「希少性」「法の支配」などの概念と関連付け、根拠を明らかにして自分の考えを導く力をつけさせたい。そしてその中で、消費生活と様々な人権は密接に結びつきがあることにも気づかせたい。そのため、小グループでの意見交流を多く取り入れたり、グループ間で意見交流を行ったりすることで、一人一人がより多くの意見に触れながら思考を広げていく場面を設けていく。そして、消費者の権利や消費者問題を多面的・多角的にとらえ、自立した消費者を目指すためにどのような取り組みが必要になってくるかなど、将来的な見通しを持たせ、学習に臨めるようにしていく。そのような力が実感できるようにするために、構造的な板書を心掛け、板書をもとにして授業の流れを再確認しながら、振り返りを行うことで、自己の変容に気付くことができるように留意していく。

6. 単元計画と評価規準(4時間扱い)

	学習内容	評価規準
1	私たちの消費生活	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活に照らし合わせた消費生活のシミュレーションを通して、経済活動への関心を高めている。【関心・意欲・態度】 ・家計のシミュレーションから、計画性を持った消費生活を送る必要性について理解している。【知識・理解】
	<p><単元を貫く課題> 賢い消費生活を送るためには、どのようなことが必要になるのか。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活でよく使う商品が、どのような経路をたどっているのか、

2	消費生活を支える流通	調べ、まとめることができる。【技能】 ・流通経路のちがいにより、消費者や経済全体に及ぼす影響について考察し、その長所や短所について説明することができる。【思考・判断・表現】
3	契約と消費生活	・契約自由の原則について、消費者主権が前提となることについて理解している。【知識・理解】 ・契約をめぐる問題には、契約自由の原則だけでは解決できないこともあることに気付くことができる。 【思考・判断・表現】
4	消費者の権利を守るために (本時)	・消費生活を営む上で、消費者はどのようなことを心掛けなければならないのか判断することができる。【思考・判断・表現】 ・資料を参考にして、根拠を持って自分の意見を述べることができる。【技能】

7. 本時の指導

- (1)本時の目標
- 消費生活を営む上で、消費者はどのようなことを心掛けなければならないのか判断することができる。 【思考・判断・表現】
 - 資料を参考にして、根拠を持って自分の意見を述べることができる。 【技能】

(2)指導過程

時間	学習内容【○】 主な発問【・】 期待する反応	【・】 指導上の留意点 【☆】 評価(方法)
導入 5分	1. アンケートをもとにして身の回りの消費者問題について確認する。 ○アンケートや新聞を通して、消費者問題に対してどのように感じましたか。 ・身近で、誰にでも起きる問題。 ・今まではなくても、これから起きるかも。	・被害の経験について、アンケートで答えた生徒にあてる。 ・アンケートや新聞記事から身の回りでも様々な問題が起きていることに気付かせる。 ・詐欺被害以外にも消費者が被害にあう可能性についても言及する。
展開 40分	消費生活を営む上で、消費者が目指すべき姿を考えよう。 2. 商品により被害を受けた事例について、誰に責任があるのか個人で考える。 ○双方の主張と法令集を参考にして、どちらに責任があるのか考えよう。 3. 導き出した結論をグループ内で発表する。 ・製造物責任法から企業側に責任がある。 ・消費者基本法から消費者は安全を求める権利がある。 4. 消費者問題への対応策を確認する。 (製造物責任法、消費者基本法、クーリング・オフ、消費者庁) 5. 賢い消費者の条件を考える。 ○賢い消費者になるための条件とは何か。今までの学習をヒントに考えよう。 ・正しい選択ができる。・情報を取り入れて、正しく活用できる。・計画性を持って、正しく判断ができる。・法律やしくみを理解している。 ・自分から権利を主張できる。・要望を言える。	・企業側、消費者側双方の意見に着目させる。 ・消費生活に関わる様々な法を根拠にして自分の意見をつくる。 ☆資料を参考にして、根拠を持って自分の意見を述べている。(プリントの記入) ・グループでの発表が終わったら全体で集約する。 ・消費者は様々な法律や機関により守られていることに注目させる。 ・消費者主権の考えを持たせる。 ・どのようなことを大切にすべきかを挙げさせる。 ・問題を未然に防止するためにはどのようなことが大切に注目させる。 ・クラゲチャートを用いて考えさせる。 ・付箋に意見を記入させ、発表用紙に貼らせる。 ・グループで1人を説明者として残し、それ以外の生徒は他のグループの説明を聞きに行かせる。

	<p>○他のグループではどのような意見が出たのか聞きに行きましょう。</p> <p>6. 賢い消費者とはどのような姿かまとめる。</p> <p>○賢い消費者は何をもとに判断しているだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を正しく取り入れて、正しい選択をしている。 ・自分の収入などを考えて、計画性を持って判断する。 ・法や制度をどのように扱っていくかを、主体的に考えている。 <p>○賢い消費者とはどのような姿かまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画性を持って正しい判断をすることができ、主体的に消費生活の向上に臨む姿。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かの生徒に発言を求める。賢い消費者の条件を関連付けることができそうか確認する。 <p>☆賢い消費者の条件を関連付け、消費者像をまとめている。(プリントへの記入)</p> <p>A基準：主体的な要素を含め、3つ以上の条件を関連付けてまとめている。</p> <p>B基準：主体的な要素を含め、2つの条件を関連付けてまとめている。</p>
まとめ 5分	<p>8. 単元の学習を振り返る。</p> <p>○単元の学習を通して、これからどんな消費生活をしていきたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを今後はどう活かしていくかを中心に振り返りをさせ、これまでの消費生活との違いを自覚させる。

8. 成果と課題

視点1 授業のねらいに沿った交流場面の設定により、単元の学びが確認できたか。

○授業の目的にあった思考ツール(今回はクラゲチャート)を使用したことで、生徒たちの思考が整理され、学びが深まった。

○一人一人の意見が採用されることで、自己有用感が高まった。

○学級全体の生徒の関係性が良好であり、自然と話し合いができていた。

○ワールドカフェ方式での全体交流を通して、一人一人の考えが広まった。

▲交流時間がより多く確保された方が、話し合いでの意見がより精選されていく。

▲PL法の事例のインパクトが大きく、生徒の思考がその結果に引きずられすぎてしまった。

▲PL法の事例は2つあっても良かった。

▲ワールドカフェ方式で交流させた後に、自分の班で再検討する時間があつた方が良かった。

視点2 振り返りを通して、「消費者」としての認識を新たにすることを実感できているか。

○振り返りシートや前時までの学習プリントをヒントにして、課題に取り組むことで、学習の積み重ねがなされた。

○振り返りの中で「これから～したい」「学んだことを～したい」など自分のこれからの生活に前向きに取り組もうとする姿勢が見られた。

▲振り返りシートを加筆、修正できる様式にした方がよい。

▲読み返したときに、用語を繋げるだけでなく、活用してまとめられていたかには差が見られた。

▲最後に賢い消費者とはについて結論を書くスペースがあつても良かった。